

新まちづくり計画（H16～18）事業総括調書

施策体系コード	3-1-2		事業名	多自然型河川整備事業
担当	建設局下水道河川部河川計画課 品田 818-3414			
全体計画（当初）				
事業内容	従来の治水整備に加え、既存の自然の保全や生物等の生息環境にも配慮しながら水辺へのアクセス向上を図り、自然と人がふれあえる豊かで親しみのある水辺を保全・創出する多自然型河川の整備を実施する。		＜年度別の事業内容＞	
	(具体的な事業内容) 親水性に配慮した緩傾斜護岸や散策路の整備 既存樹木の保全に配慮した整備 生物の生息環境に配慮した河道整備(瀬と淵の設置、自然材料の使用)等		平成16年度 篠路川他1河川 L = 420m 平成17年度 西野川他3河川 L = 1,170m 平成18年度 西真栄川他1河川 L = 460m	
事業内容 (量・場所・規模等)	平成16年度事業内容(決算)		平成17年度事業内容(決算)	
	篠路川 L = 600m (親水性に配慮した散策路の整備) 穴の川 L = 20m (親水性に配慮した散策路の整備)		篠路川 L = 150m (親水性に配慮した散策路の整備) 西野川 L = 220m (親水性に配慮した緩傾斜護岸や散策路の整備) (既存樹木の保全に配慮した整備) 西真栄川 L = 450m (親水性に配慮した散策路の整備)	
事業内容 (量・場所・規模等)	平成18年度事業内容(決算)		評価(成果)	
	西真栄川 L = 600m (親水性に配慮した散策路の整備) 西野川 L = 170m (親水性に配慮した緩傾斜護岸や散策路の整備)		着実に多自然型河川整備を進めた結果、成果指標である整備延長は、平成18年度で11.2kmとなり、目標の11kmを達成した。整備の結果、ワークショップにより整備計画を策定した西野川や多くの河川で、子供たちが川遊びをするなど、地域住民に利用される河川となっている。また、事後調査によると、穴の川では、これまでのフクドジョウに加え、イトヨ、ヤマメ、オショロコマなどの魚類が確認されるなど、生態系の多様化が確認できている。	
課題				
治水整備を伴わない河川の環境整備に関する補助メニュー(地方特定河川等環境整備事業、環境施設整備費補助)が廃止され、単独費のみの整備となったことから、これまでどおりの整備ができない状況である。				
19年度以降の方向性・事業の予定				
治水整備を伴わない河川の環境整備に関する補助メニュー(地方特定河川等環境整備事業、環境施設整備費補助)が廃止され、今後は単独費のみの整備となることから、これまでどおりの整備は見込めない状況である。しかしながら、豊かな自然環境を守り、地域のコミュニティの場や子どもたちの遊ぶ場を創出する河川環境整備は今後とも必要であると考え、このため、平成18年度、今後の河川環境整備の指針となる「さっぽろ地域川づくりに関する提言」をワークショップを開催するなど、多くの市民の意見を取り入れ、「さっぽろ地域川づくり座談会」でまとめてもらった。平成19年度以降は、提出された提言に基づき、「河川環境整備基本計画」を策定し、この計画に基づいて、河川環境整備を進めることとする。				

